



◇ 8 月 7・8 日、第 3 回全国高校教育模擬国連大会に 10 名の生徒が参加しました。

大会名：第 3 回 全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN)
 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
 日時：2019 年 8 月 7・8 日
 主催：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
 全国中高教育模擬国連研究会 (全模研)
 大会規模：約 650 名 (5 会場に別れて議論)
 会議方式：全日本高校模擬国連大会と同じ方式 (ハーバード方式)
 使用言語：日本語 (ただし簡単な定型句などは英語使用の場面あり)
 議題：「国際移住と開発」

関高校参加者一覧

ペア 1	浜田 望花 1 年	藤吉 彩音 1 年	カタール	D 会場
ペア 2	古田 響 1 年	岩田 悠市 1 年	ガンビア	E 会場
ペア 3	岩井萌々子 2 年	那須 優花 2 年	オーストリア	E 会場
ペア 4	稲川 温 2 年	渡辺 真子 2 年	ハンガリー	D 会場
ペア 5	羽田野智子 2 年	澤 奈都 2 年	バハマ	A 会場

<事前準備>

テーマは“国際移住と開発”。各ペアは、割り当てられた国の大使役を務めます (上記一覧表)。10 名の参加者のうち、模擬国連経験者は 2 名のみ。あとは全員初心者です。

まず事前課題の議題概説書 (Background Guide) を読み込み、政府機関の HP や書籍を参考に、担当国の基本政策を立案するところから始まります。その後国ごとに PPP (Position and Policy Paper) を作成しました。

また自分たちに割り当てられた国の情報だけでなく、同じ会場に所属する他国の現状、現実の政策についても事前に調べておきます。



<第 1 日目> 開会式のあと、すぐに討議の開始です。関高生は、5 ペアが 3 か所の議場に分かれて参加しました。

各国大使によるスピーチに続き、外交官の交渉力が問われるアンモデレートコーカス。初心者が集まる会場では、スムーズに交渉に参加できず戸惑う大使の姿も見られましたが、非着席でのマルチ交渉が始まると議場は一気に白熱しました。

初日は模擬会議の終了後に交流会も行われ、会議での熱い議論から離れて他校の生徒たちとの輪を広げることができました。



<第2日目> 模擬会議では、序盤にスピーチやWP(Working Paper)を通し、各国が主張を議場に共有します。そして、中盤以降はDR(Draft Resolution)の作成を通して、各国の意見が集約されます。最終的にDRが提出され、投票にかけられます。各議場ともに、1日目に提出されたDRをめぐって、各国大使によるスピーチやマルチ交渉が繰り返されます。

関高生は初参加者が大半で、最初は戸惑いがちでしたが、他校の生徒の刺激をうけながら、スピーチ、アンモデレートコーカス等で積極的な姿勢で頑張っていました。

やはり、会議をリードしたのは、模擬国連常連校の高校生たち。彼らのファシリテーションやプレゼン、コミュニケーションスキルの高さには、関高生も驚かされるばかりでしたが、2日間の交流を通じ、自分たちが解決すべき課題も見つかり、有意義な時間を過ごすことができました。



◇ 参加した生徒の感想

■初めての参加なのに、周りの人を巻き込んでいく大使たちがすごいと思った。僕もあんなふうになれるように、人が納得できるように意見を言っていきたい。

成果は色々な人に自ら声をかけて話しに行くことが出来たことだ。はじめは少し恥ずかしい気持ちもあったが、自分たちの国について話していくうちにその気持ちも薄れていった。アンモデなどを通して本当にコミュニケーションの大切さが分かったし、その能力も向上したと思う。議長が言っていたように、自分の意見は黙っていても決して伝わらないので、日常で伝えるべきことがあった時、強い気持ちをもって伝えていきたい。

反省点は、会議中のモデの場などであまり発言ができなかったことだ。あそこで自分の政策を全員にしっかり知ってもらうために積極的に発言すべきだった。また、事前にもっと自分たちの政策を深めておくべきだった。他の国の政策はとても具体的で納得出来るものが多かった。それに比べて僕達のは浅かったと思う。もし次、模擬国連に参加するときには事前の準備を綿密に行い、会議に参加するようにしたい。

本当に濃密な2日間だった。この経験をクラスで話し合うLHRの場などに活かしていきたい。また多くの人の前で自分の意見を言うことも心がけていきたい。

■初めて模擬国連に参加してみて、たった2日間の中で、多くの刺激をもらいました。

まず、アンモデでの各国の政策の交流です。自分たちの政策を相手国に理解してもらうのは非常に大変でした。各国それぞれの政策を聞き、自分たちでは考えつかなかったような政策もたくさん聞いて驚きました。公式討論で実際にスピーチはできませんでしたが、モデでの意見交流で手短ではあったが、各国に自分たちの政策を理解してもらいました。自分たちの政策を発表すると、多くの大使の方から質問や意見をいただけました。気づかなかった問題点にも気づくことが出来ました。



また様々な大使の方の政策を聞き、自分たちの政策と似ている部分や異なる部分を即座に自分なりにまとめることができました。情報処理の力がつきました。大使の方達と交流する場面では、コミュニケーション能力も高めることができました。

課題としては、事前準備が不完全であり積極的に行動ができませんでした。来年も模擬国連に出てみようと思ったので、来年は自分たちの政策をしっかり決め、公式討論で堂々と発表していきたいです。

■今回初めて模擬国連に参加させて頂いて、最初はやる事が全くわからず、不安もあり、担当する国がさっぱり知らない国であったこともあり、緊張しかありませんでした。しかし当日堂々と自分の国のことを話す同じ高校生がたくさんいて、自分がまだまだ未熟であると感じる一方、あの子達のようになりたいという憧れを持ちました。

アンデモがあった時、なかなか自分から声がかかれなかったけれど、次第に慣れ、最終的にはグループを作ることができました。そのグループの中で色々と政策を考えていく過程で、色々な子と話をし、友達になることも出来ました。

今回の模擬国連ではみんなの前で話すということは無理だったけど、ぜひ次回参加する時は、自ら動けたらいいなと思います。最初は不安しかかったけど、今は達成感や出てよかったという思いでいっぱいです。すごく楽しい2日間を過ごすことができました！



■今回初めて模擬国連に参加して、たくさんの立場の国の意見をまとめ、参加するすべての国が合意できる案を考え出すことの大変さを感じました。そして、国の代表として働くことの責任の大きさを実感しました。特に、自分の国の利益を重点に置きながら世界的にも合意できる案を考え出すことがとても難しかったです。

事前準備、模擬国連当日共にとても大変でしたがとても良い経験ができました。

■模擬国連は、私が思っていたよりとても疲れました。それは、周りの人達が同じ高校生とは思えないくらい自分の意見を言うこと積極的に行っていたからです。1日目は何をしたら良いのかイマイチつかむことができず、ほとんどの何もすることができませんでした。しかし2日目からは、自分の意見を広めるために、たくさんの人と話し、1日目よりも積極的にできたし、楽しかったです。

私はこの模擬国連を通して、時間を守ることは大変なのだと感じました。1秒でも時間を過ぎてしまうと、WPを受け入れてもらえず、努力をみんなに広めることができなかつた人達がたくさんいたからです。これからの生活では、自分の意見を積極的に広めるためにたくさんの人と話すことを努力していきたいです。



■模擬国連を通して、積極的に行動することと相手の思いを考えて発言することの大切さを学んだ。1日目は自分の思っていることを話せなかった。周りを見ると私と同じ高校生の子は自分から意見を話したり聞いたりしていた。圧倒されてばかりだったけど、私たちも一緒になって話す

ことができた。2日目は私たちから話すことを心がけた。積極的という意味ではこの2日間で変わったのかなと思った。

また、同じグループになった国の中で、こういう風にしてこうしようといったプランをたてて提案してくれた子がいて私たちの国のこともしっかり考えてくれているのだなと思った。今回学んだ2つのことを実践していかないと意味がないと思う。学校生活の中で私の中の壁を壊していけるように頑張りたい。



■国連総会では、何か決め事をする際に、国際的利益、自国の利益の2つが大使に求められます。この2つを同時に満たすことはなかなか難しく、今回の会議でもそこで全ての加盟国の意見をまとめることが難点となりました。

そんな中で、私はリーダーシップの取り方について大事だと気づいたことを述べたいと思います。それは次の4点です。

- ①目標設定を共有すること。
- ②いろんな観点から踏まえたアイデアを多く用意すること。
- ③起こりうる問題をすぐに解消すること。
- ④全ての人の意見を聞くこと。

これらを満たせば、全ての人のモチベーションを高めながら物事を進められるのではないかと思います。

模擬国連では自分の殻を破り、全国の意欲ある高校生たちと真剣に議論し合うことができます。そして普段学校では学べない、コミュニケーションや問題解決能力がたった2日で飛躍的に養われます。是非関高生にもたくさん参加してもらいたいです。絶対いい夏の思い出になります。私もまた参加したいです。

■この2日間ですごく良い体験ができたと思います。

最初、担当国がカタールと聞いたときには、なにも分からずに1から調べ始めて、調べていくにつれてその国についてわかっていくのも楽しかったです。当日全体の前で話すことはなかったけど、アンモデのときやグループ内で自分たちの考えてきた案を話して、意見交流ができて良かったです。

他の学校と比べて自分たちのコミュニケーション能力が低いと思ったし、もっと国の大使として最初からやっていくべきだったという課題も見つけられたと思います。来年も行けるなら行きたいと思うし、この経験を通していろいろな国について興味が出てきたから知っていけたらいいなと思います。

